

福島県看護連盟だより

第20号

平成23年1月発行

発行所／福島県看護連盟
郡山市本町1丁目19番8号 生天目ビル1階
TEL (024) 973-8819
発行責任者 笹原和子

ふくしま

F U K U S H I M A

ベッドサイドから政治を変える 高めよう! 看護職の政治参加意識



福島県看護連盟事務所にて たかがい議員を囲んで



謹賀新年

目次

contents

●日本看護連盟 会長 平成23年 新年のあいさつ	P2
●衆議院議員 あべ俊子 平成23年 新年のあいさつ	P2
●福島県看護連盟 会長 平成23年 新年のあいさつ	P3
●福島県看護協会 会長 平成23年 新年のあいさつ	P3
●南野先生からのメッセージ ●感謝をこめて	P4
●たかがい恵美子議員の活動報告	P5
●平成22年度男性看護師研修会報告	P6
●平成22年度看護教育者セミナー報告	P7
●平成22年度都道府県看護連盟会長・幹事長支部長合同会議報告	P7
●あおぞら ●学生会員のすすめ ●しゃくなげ支部から ●編集後記	P8

看護の心を、みんなの心に



ハートを擦ると
りんごの香りがします。

日本看護連盟 会長 平成23年 新年のあいさつ

日本看護連盟
会長 清水嘉与子



福島県看護連盟会員の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年7月の政権交代後初の国政選挙となった参議院選挙では、見事高階恵美子参議院議員を誕生させることができました。会員の皆様のご活躍によるものであり、日本看護連盟にとっては、リフォーム連盟の成果が6年ぶりに実ったものとなりました。

見藤前会長の病氣療養の後をうけて看護連盟会長に就任したものの、3ヵ月後には与野党逆転、野党となった自民党から代表を送るということで、本当のところ不安な気持ちもありましたが、日ごとに盛り上がる会員の皆さんの熱気、高階恵美子さんのやる気満々の姿に接して、選挙戦が近づくとつれ必ず当選できると確信のようなものさへ湧いてきました。

3年前の失敗もあり、南野知恵子先生が引退されたら、誰も参議院にいないという危機感も全国の会員の力をこれだけ結集させることになったのではないのでしょうか。

世界一の長寿国になったのは有難いことですが、安心して老後が送れるかというと、年金にしろ、医療や介護にしろ問題山積です。医療の高度化・専門化はさらに進む一方、在院期間はどんどん短くなります。医療を受ける場合は病院だけではなく、在宅に地域にと広がっています。これまで高度急性期病院に集中して看護師を集中させてきた看護政策は大きな転換期を迎えているといえます。在宅ケア、看取りの看護…これまで手薄になっていた分野で看護職の持てる能力を生かす政策の充実が急務です。いまこそ国政の場での看護代表の活躍が必要な時です。私達が国会に送り出した阿部衆議院議員、高階参議院議員の一層の活躍を期待し、温かく見守っていただきたいと思います。

看護連盟は引き続き、「ベッドサイドから政治を変える」をスローガンに、将来を見据えた活動を展開いたします。どうぞご支援くださいますようお願い申し上げます。

衆議院議員 平成23年 新年のあいさつ

衆議院議員
あべ俊子



福島県看護連盟の皆様、新年あけましておめでとうございます。いつも温かいご支援を賜り、心より感謝申し上げます。また昨年の参院選では皆様の多大なるご尽力のおかげさまで、たかがい恵美子議員という心強い同志を得ることができました。

現在、党内の看護問題小委員会の副委員長職をたかがい議員と務め、国会議員の先生方とともに看護問題に関する様々な検討を重ねています。本年度は「穏やかな最期を保証するコミュニティづくり」をテーマとした検討を始めており、少子高齢社会の中でこれから多くの死を迎えていくわが国において、看護が中心となってより良い看取りができる場を確保するための政策提言をしていきたいと考えています。同時に、看護の労働環境の整備に関しても、看護職の皆さんが働きやすい職場環境を確保していくために、夜勤シフトの組み方をはじめとした現状の改善を目指す取り組みについて議論を始めています。看護職の皆さんに現場が良い方に変わったと少しでも実感して頂けるように、本年も精一杯看護の政策に取り組んでまいります。

また国会では、厚生労働委員会・文部科学委員会をはじめとした4つの委員会に身を置くことになり、慌ただしくも充実した毎日を送っております。昨年は厚生労働だけでなく、農林水産、財務金融、青少年問題など様々な委員会で質問させていただく機会も増え、国会会期中は毎週委員会質問に追われる忙しい一年となりました。しかしながら、いたずらに批判や争いをするだけの野党ではなく、必要な法案は修正案として可決するなど、政治と政局とを切り分け、国民生活の安定を第一に考える野党として行動しています。

このように2期目に入り、1期目の頃とは比較にならない位、国政の場で自分の果たす役割が広がっていることを日々実感しています。忙しさに流されることなく、常に国民の立場に立って考えることを忘れずに取り組んでいかなければと気持ちを引き締めております。どうか本年も、皆様のお声をお聞かせ頂き、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

福島県看護連盟 会長 平成23年 新年のあいさつ

福島県看護連盟

会長 笹原 和子



あけましておめでとうございます。会員の皆様にはお健やかに新年を迎えられたことと心よりお喜び申し上げます。

昨年中は看護連盟活動に絶大なご支援いただきましてありがとうございました。看護の代表を高い票で国政に送ることができましたこと厚くお礼申し上げます。

福島県はリフォーム連盟後の組織強化に努めてまいりました。その結果、支部活動の実績が評価され成果に結びつきましたことは大変喜ばしいことです。

平成23年度は看護職能団体として、さらにゆるぎない体制を構築するための活動を展開して行かなくてはなりません。

高齢社会が進展している今日保健医療福祉、特に看護・介護に関する課題が山積しております。今こそ看護職の役割の重要性を社会に示す時ではないでしょうか。

看護政策の実現に向けて看護連盟活動を進めるためには、「ベツサイドから政治を変える」連盟の方針の理解を多くの仲間浸透させ3年後に向けての基盤づくりに今から努めていかななくてはなりません。

目標は第22回参議院選挙の総括からの課題として

「看護職の政治参加意識を高め確実なものにする」ことです。そのために今後

- ・看護協会とのさらなる絆を深めるため情報交換を密にする。
- ・学生会員を募り若い方に看護と政治の関係の理解を深める。
- ・支部組織を強化し会員一人ひとりの看護連盟に対する理解と協力を推進する。
- ・地方議員・地元国会議員との交流を深め問題解決に向けた働きかけを実施する。

今後もベツサイドから政治を変える活動を展開し、看護職に理解していただく取り組みを実施して行きますのでご協力お願い申し上げ新年の挨拶とさせていただきます。

福島県看護協会 会長 平成23年 新年のあいさつ

社団法人 福島県看護協会

会長 西山 郁子



新年あけまして おめでとうございます。

会員の皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、日頃、本協会の事業推進にご理解とご協力をいただきまして、心から厚く御礼申し上げます。

昨年は、連盟会員の皆様におかれましては、7月の参議院選挙では熱く熱く燃え、一致団結の結果看護職能の代表を国政に送ることができ、私達も共に喜びあえることができましたこと大変嬉しく思います。

本協会も「看護協会会館・看護研修センター」(愛称:看護会館みらい)が、会員をはじめ関係機関・関係者皆様の深いご理解とご賛助をいただきまして完成いたしました。

8月から業務を開始いたしました。この会館を活動の拠点として、常に専門職業人として看護の質の向上を図り、看護の職能団体として主体的に行動し、地域の保健医療福祉活動に貢献してゆかなければなりません。

近年、安心・安全な医療を提供するために医療関係職種それぞれの専門性を高め、相互の専門性を理解して、チームを組んで医療看護のサービスを提供してゆくことが求められています。そしてこのチーム医療の中核となる職種として看護職に期待が寄せられています。これらの期待に応えるために、事業内容の充実強化を図り、看護職員ひとりひとりがキャリアアップするとともに看護に対する判断能力を高め、質の高い看護を提供してゆきたいと思っております。

今、看護職能における課題は山積していますが、私達自らが解決していかなければなりません。お互いの活動を尊重し、支援し合って職能団体の活動をしてまいりたいと思っておりますので、今年もよろしくお願い申し上げます。

会員皆様のご多幸とご健勝をお祈りいたしまして、新年のごあいさついたします。

南野先生お疲れさまでした



南野先生からのメッセージ

福島看護連盟の皆様へ

前参議院議員

南野 知恵子



いつも、あたたかい、ご指導、ご鞭撻賜りまして、心より感謝申し上げます。

皆様方におかれましては、新年を迎えられ今年のために目的に向かって歩を進められていることと存じます。「虎」に感謝し、「卯」と共に暮らす今年ですが、更に友としての「ウ」を4つを見つけました。「宇」は宇宙で、空間と時間無限の広がり、宇は人の度量をも意味します。「右」は上位、尊重する、たすけるの意をもっています。「有」は有為、事をなす存在の意です。「優」やさしく、ゆたかに、しとやかにの意があり、「宇」「右」「有」「優」と欲ばり、「卯」の一年をあるきたいと思います。そして座右の銘は、皆様、何とされるでしょうか？

昨年の夏は、皆様方のお力を結集されて、大変な参議院議員選挙を勝利に導いて下さいました。連盟史上初めて、直接のバトンタッチができました。継続して、議席を引きついで活動展開できることは、最高の喜びでした。有難うございました。「たかがい参議院議員」の誕生を得て、心残りなく退任できる事を嬉しく思います。どうぞ皆様方のお力を添えて下さいますよう、お願い申し上げます。さて、退任後は、ゆっくり出来ると思っていましたが、引越しのダンボールも未だ残っており、貧乏暇なしで、バタバタしておりますが、時に皆様にお会いすることができる時は、嬉しく存じます。

さて、3期18年は、私にとり、アツという間の出来事のように思います。当時の日本看護協会長・連盟会長であった有田幸子先生より命を受け、私にとっては、新しい未知の世界をあるくこととなりました。有田会長は、私を議員に仕立て18年間見守って下さり、私の退任と同時に、たかがいさんの不在者投票を済ませ、その勝利は、天国から見守って下さったのです。私の議員としての生みの親・育ての親としての先生への感謝は言葉では表せない程であり、感謝あるのみです。白紙のページをあるくに当たって、議員の主たる活動は「立法」にありと見つけました。看護・助産の窓を通して見る事柄を、政策・立法に形づくる、教育・労働とその環境、リプロダクティブ／ヘルス／ライツの観点から、小児・高齢者の虐待問題、DV関係性同一性障害問題、他、ハンセン、原爆、無年金、残留邦人の問題、学校教育に関しては、子どものいじめとも関連し、養護教諭の位置づけ、学校図書館の司書教諭問題を立法するなど、子ども達に、学校にオアシス作りと努力した事などが思い出されます。国際的にはクロアチアに日本大使館をオープン出来た事、ベトナムとモンゴルに助産師会を立ち上げた事、山口県美祢の社会復帰促進センター入口には「再誕乃丘」の碑が建てられた事など、走馬灯の様に思い出されます。18年間の軌跡として「思い出の立法」と、「泣きよっかひっ飛べ（支えられ 18年）」にまとめました。また、平成22年11月5日には、叙勲を賜わり、皆様方に感謝の念で、いっぱいです。

「来し方を ふりかえれば友 常にあり 旭日大綬章は 友との宝」

「汗しつ 紡ぎし絆は 宝となりて 叙勲の栄誉は 友・友のもの」

3期、18年間、皆様方のお支えに心より、感謝申し上げます。有難うございました。

感謝をこめて

福島県看護連盟 顧問 佐藤 榮子

南野知恵子先生は看護の代表議員として国政の場に3期18年の長きにわたり活躍され多大な功績を残されました。私にとって南野先生との出会いは助産師職能委員長時代より指導をいただき、その後3回の選挙には福島県看護協会会長として看護連盟会長として応援できましたこと、この上ない幸せを感じております。南野先生はこの18年間いつも赤いスーツを身を包み厳しい戦いを勝ち抜き時には票が伸びずハラハラドキドキした選挙もありました。でも先生は持ち前の情熱と円満なお人柄、相手への心づかいなど常にその根底には看護の精神があり母性がありました。また看護の代表議員として初めて法務大臣等の大役を歴任。そして自民党への逆風の中にあっても積極的に多くの法案を立法化され成立をみております。昨年の秋の「感謝の集い」のときには、その使命を果たされた晴れやかなお姿に今改めて南野知恵子先生の「思い出の立法」（18年間の軌跡）に感謝しお礼を申し上げます。



会長として応援してきました。



15年7月 引き続き国政へ！ 決起大会



18年6月 通常総会にて



22年6月 通常総会にて



南野先生よりハトンを受けて

たかがい恵美子議員の活動報告

福島県看護連盟の皆様、新年明けましておめでとうございます。看護連盟の皆様におかれましては輝かしい新春をお迎えのことと存じます。

昨年7月に行われた参議院議員選挙では、初当選を果たすことができました。皆様の熱い思いに支えられ、また、温かな励ましをいただき、常に前へ前へと進むことができました。これも、共に活動を日々積み重ねてくださった、お一人おひとりの会員皆様のおかげでございます。

おかげさまをもちまして、毎日元気に活動に取り組んでおります。

国会におきましては、厚生労働委員会、行政監視委員会に所属しております。



①厚生労働委員会質問



②有楽町街頭演説会



③訪問看護サミット

平成22年11月16日には、参議院厚生労働委員会において、参議院当選後初めて国会質問に立たせていただきました。今回は、細川律夫厚生労働大臣の所信に関連して、看護職の人材確保や報酬についての課題など厚生労働省の基本施策について質問いたしました。人口が減り、子供が減り、働き手が減る中で高齢化が進む社会。そんな時代に必要な確かな社会保障を実現する第一歩となりました。(写真参照①)

党においては、女性局長代理として、各種会議に参加しております。11月10日には、自民党の地方女性議員が集結し、東京都内3カ所に分かれて、街頭演説会を実施し、自民党女性局として、児童虐待防止への取り組みを訴えさせていただきました。(写真参照②)

11月7日には、日本訪問看護振興財団主催「訪問看護サミット2010～どうなるどうする訪問看護～」が開催され、自由民主党を代表して、パネラーとして、参加いたしました。(写真参照③)

今後とも、ご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げ、連盟の皆様の今年一年のますますのご健勝とご多幸をお祈りし、活動報告いたします。

自民党看護問題小委員会参加

11月30日、自由民主党の厚生労働部会看護問題小委員会(委員長＝田村憲久衆議院議員、副委員長＝あべ俊子衆議院議員、たかがい恵美子参議院議員)が「看護職の勤務体系について」を議題に開催されました。久常節子日本看護協会会長が「看護職の労働問題について」説明しました。

看護職の労働実態について

- 看護職が年間約12%離職しているが、厳しい労働環境がその一因である
- 日本では看護職の勤務時間の上限や勤務間隔規制がない：十分な休養がとれずに次の勤務に就いている。
- 看護職の50.5%が月に9回以上夜勤を行い、26.1%は10回以上行っている。
- 交代制勤務者の4.3%が、過労死レベルである月60時間以上の超過勤務を行っている
- 多くの看護職が慢性疲労の自覚症状を訴えている。

日本でも看護職の夜勤・交代制勤務に関する最低基準をつくるべきと訴えました。

当選の御礼に 福島県看護連盟を訪問



平成22年度男性看護師研修会報告

期 日 平成22年10月16日(土) 講 師 日本看護連盟幹事長 石田昌宏

会 場 福島テルサ テーマ 「男性看護師が専門性を高めるためには」

目 的 男性看護師の専門性を高め、リーダーシップがとれる 出席者 107名



会田病院
安田 巨樹

今回の研修を受けて男性看護師は増えているがまだまだ女性の仕事というイメージが強いということを感じました。また、男性看護師の中には「このまま看護師を続けて家族を養う事が出来るのか」などという不安を感じている方がいるということに驚きを感じました。私はまだ2年目ということもあり将来をあまり考えたことはありませんでしたがこのような現状があるのを知るとやはり不安を感じます。男性看護師が専門性を高めるために、また男性の看護界進出の増加を目指すには環境作りが大切であり看護連盟が代表として取り組んでいるということに強く共感を持ちました。私は看護連盟には加盟していませんが研修を受けて連盟が看護職員の環境改善のみならず活動を通して患者様により良い看護を提供できるように働きかけているということを知り今後も研修や活動に参加したいと思いました。



北福島医療センター
錦戸 秀和

この度、県内では初の男性看護師研修会に参加させて頂き、まず始めに驚かされたのはその参加人数でした。常に女性の多い職場で仕事をしている自分達にとって県内各地から百数名といった参加人数と男性看護師としての意識の高さには心強さすら感じました。

そして講義を務めて頂いた日本看護連盟の石田幹事長の講演はご自身の体験談を交えたとても興味深いものでした。男性看護師特有の職場環境や女性患者さんへの対応など石田幹事長が臨床から学ばれた話は家庭・経済面のことまで及び、これからの看護師に求められる専門性についてなど全てが今後の看護に生かすことのできるお話でした。今回の様な研修会を是非また企画して頂き今後は男性看護師同士互いの情報交換の場としても活用出来ればと考えます。

最後に今回の研修で学んだ事を糧に一男性看護師として常にプロ意識を持ち看護職の専門性の向上に努めていきたいと考えます。



熱心に聞き入る受講生



講師 日本看護連盟石田幹事長

平成22年度看護教育者セミナー報告

期 日 平成22年11月20日(土) 講 師 日本看護連盟常任幹事 竹澤良子
会 場 ビッグアイ テーマ 「看護と政治の関係性をどう理解させるか」
目 的 看護教育者が看護と政策の重要性を認識し、看護基礎教育で学生に指導ができる 出席者 32名



国際メディカルテクノロジー専門学校
看護学科 副校長

影山 かほる

平成22年11月20日(土)ビッグアイにおいて上記セミナーが開催されました。講師は日本看護連盟常任幹事 竹澤良子先生でテーマは「看護と政治の関係性をどう理解させるか」という講演でした。若い人達に看護と政治の関係性をどう伝え、理解していただくかについて大変興味深く聴講させていただきました。昨年7月に看護職の基本法である「保助看法」の一部改正が実現された過程や、我々が国政に送った代表議員さんたちがどんな苦勞をされたのか等、大変具体的に聞くことができました。また、看護と政治は密接な関係にあることを若い人達にどう伝えるかということは、その伝える側の我々がどこまで知っているかということでもあり、今回の講演はそれを改めて考える良い機会となりました。

私自身、日頃考えていたことは、いかにして看護職を社会に認めさせていくかは、看護職者自

らが政治に関心をもち、学び、自律していくことであり、そのためには看護の歴史的背景をとらえることが必須だと思っていました。看護教育115年という長い歴史のなかでわが国は15通りにも及ぶ看護師になるための養成コースがあることは世界に類をみないものであります。これらを知るためにそこに至った制度を理解し、「制度を変えないと看護は変わらない」という先生のお話にもありますように制度を変え、社会に認めさせていくことが必要であると考えます。今後は、看護職者一人ひとりが我々の責任のもとに国会に送り出した参議院議員高階恵美子さんなどに、しっかりと現場の声を届け、看護の質の向上と地位の確立を図っていく必要性を感じました。



福島県主催初の看護教育者セミナー

平成22年度都道府県看護連盟 会長・幹事長・支部長合同会議報告

郡山第2支部長 大河原民子

平成22年度都道府県看護連盟 会長・幹事長・支部長合同会議が9月4日(土)東京プリンスホテルにおいて開催されました。福島県からは、笹原会長、本内幹事長、各支部長の皆さんが出席しました。開会では、清水会長の挨拶に続いて顧問の臼杵久子氏、能勢和子氏、南野知恵子氏からも挨拶がありました。皆さん誇らしげに高階恵美子さんの当選を言葉では言い表せないほど喜びがあふれるような挨拶が続きました。

会議では、主に第22回参議院選挙総括(案)が提案され、参加した皆さんからたくさんの意見が出されました。リフォーム連盟活動により組織強化と会員の意識向上が進んだこと、政権交代という中でもぶれないで活動したことが会員をはじめ多くの方や団体から共感を得たことなどが示されました。また、課題も出されました。会員の方々にも総括が示されることと思います。今回の参議院選挙での福島県の得票数は全国2番目でした。福島県から出席した私たちは、1位になれなかった悔しさを忘れず、次回はトップを目指そうと誓い合いました。

会議終了後、懇親会が開かれ参加者皆さんの喜びが会場いっぱいに広がりました。参議院議員となった高階恵美子さんと福島県から参加した皆さんと記念写真を撮り楽しい時間を過ごしました。

あおぞら

在宅の 看取りについて

ほばら訪問看護ステーション
所 長 佐藤由美子

「看取り」必ずおとずれる幕だと思えます。生を受けそれを閉じる人生のあたりまえの出来事です。“最期を自宅で”と望む方は多くいらっしゃいますが、なかなか「在宅での看取り」が増えていないのが現状です。

見慣れた風景、声、音、匂い、自分の場所がそこにある。それが自宅です。そしてそこで生活する、医療が必要であれば提供できる、介護が必要であればそれも可能、地域での暮らせる方法が何か見つかるのではないのでしょうか。

その方がどう生きたいのか、思いを聴かせていただくことを大切にしていきたいと考えます。皆様は自分の最期をどうしたいですか。



学生会員のススメ

看護学生のみなさん、学生会員になりませんか！ 看護連盟は、人々の「いのち」と「健康」をまもるために「ベッドサイドから政治を変える」のスローガンのもと活気あふれる活動を行っております。看護界の情報を得て、広い視野に立つ看護師を目指しましょう。



しゃくなげ支部から

しゃくなげ支部長 福田玲子

連盟会員の皆様、しゃくなげ支部をご存じでしょうか。

当支部は、看護職を退職した後も連盟会員を継続している看護職OB者（個人会員）の支部です。県内を県北、県中県南、会津、相双、いわきの5地区に地区担当幹事をおき運営しております。地区毎に研修会や懇親会を持ち、看護界の動向、看護議員の活躍を共有しております。昨年の参院選では、看護職代表者を国政に送り政治力による看護環境等の改善は後輩の為であるが、ひいては人々、我身にかえると連盟会員の誇りを胸に多くの票を集めました。会員の年齢は80歳代の方など幅広く看護を受ける立場での話題に和気あいあいの楽しい支部です。

退職される皆様には、連盟会員を継続し、どうぞしゃくなげ支部へ入会して下さいお願いいたします。



編集後記

あけましておめでとうございます。昨年は皆様のご支援のもと立派な実を結ぶことができ、あらためて感謝を申し上げます。

今年もさらに磨きをかけ、看護と政治に対する意識が高められるよう、広報委員一同、わかりやすさをモットーに頑張ります。

広報委員メンバー

副会長	服部	幸子
幹事	薄井	公治
委員	武田	美子
委員	大内	京子
委員	鈴木	ひとみ
委員	深谷	美が

